６月２５日（土）２限目

「情報メディアとしての江戸浮世絵版画を考える」

担当教員：メディア学部　メディア情報学科

斉藤好和　特任教授

「現在の浮世絵は芸術品として見られているが、江戸時代の浮世絵はどういうものだったと思うか」という問いかけで講義が始まりました。千葉県出身の菱川師宣が「浮世絵」と言うジャンルを確立した人物であることや、浮世絵の位置づけとして、観光名所の紹介や土産の絵葉書、遊女のファッションを紹介するファッション雑誌、人気の歌舞伎役者や相撲力士のブロマイドというような情報媒体だったこと、浮世絵が芸術品として評価されるようになったのは明治になり海外で人気になってからだったことなど、意外と知らない浮世絵について学びました。